

学校経営に関する数値は様々あるが、私は「入口・中・出口」に関する数値を重視している。

「入口」は高校入試倍率（中学生にとって入りたい魅力ある学校になっているか）、「中」は在校生の学校満足度（本校に入って良かったか、学校生活は充実しているか）、そして「出口」は進路状況（大学合格・進学実績はどうであったか）のことであり、特に三つ目の出口は、学習・探究・生活・進路指導等の全てを含む本校の総合的な指導力・教育力を示す指標であると捉えて学校経営に当たっている。

その「出口」であるが今年度は難関国公立大学現役合格者が19名（うち理数科8名）に達し、進学指導重点校基準の15名を上回ったが、昨年度の実績には届かなかった。一方、国公立大学の学校推薦型・総合型選抜による合格者は15名に達し、平成31年に本校がSSHに指定されて以来、過去最高の合格者数となった。

次年度以降も「入口・中・出口」を重視し、学校経営の更なる改善と目標達成に向けた取組を進め、都民の期待と信頼に応える学校作りを推進していく。

I 今年度の取組目標等に関する自己評価

1. 【重点目標・数値目標】の達成状況（過去5年間の推移）

(1) 学習・学校生活に関すること

○ 1週間の自主学習時間 1年生:18時間以上 2年生:24時間以上（表記 HH:MM）

1年生（R3:14:42、R4:14:00、R5:10:11、R6:12:12、R7:11:44）未達成

2年生（R3:14:36、R4:14:36、R5:10:42、R6:11:20、R7:11:53）未達成

○ 学校評価アンケートで「入学して良かった」と回答する生徒の割合 90%以上

（R3:93.5、R4:89.9、R5:92.8、R6:95.0 R7:97.3）達成

(2) 進路指導に関すること

○ 大学入学共通テスト受験者のうちフル型受験者数 240名以上

（R3:244、R4:244、R5:231、R6:228、R7:253）達成

○ 国公立大学現役合格者数 140名以上

（R3:138、R4:135、R5:132、R6:135 R7:127）未達成

○ 難関国公立（東大・京大・一橋大・科学大・医学部医学科）現役合格者数 27名以上

（R3:17、R4:21、R5:19、R6:25 R7:19）未達成

○ 難関国公立（東大・京大・一橋大・科学大・北大・東北大・名大・阪大・九大・医）現役合格者数 40名以上

（R3:33、R4:40、R5:31、R6:37 R7:39）未達成（あと一步）

○ 国公立大学 学校推薦型・総合型選抜 現役合格者数15名以上（指定校推薦を除く）

（R3:9、R4:12、R5:6、R6:11 R7:15）達成

(3) 入学者選抜に関すること

○ 【普通科】入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(普)3.20倍、学力:(普)2.00倍

推薦（R3:3.33 R4:3.50 R5:2.95 R6:3.43 R7:3.00）未達成

学力（R3:1.95 R4:1.96 R5:1.86 R6:2.22 R7:2.10）達成

※R3以降の普通科学力の倍率＝（普通科専願者数＋普通科・理数科併願者数）／普通科募集人員数

○ 【創造理数科】入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(理)1.50 学力:(理)4.00倍

推薦（R3:理2.00 R4:理1.50 R5:理1.13 R6:理1.13 R7:理2.00）達成

学力（R3:理3.70 R4:理3.66 R5:理2.71 R6:理4.51 R7:理4.15）達成

※理数科学力の倍率＝（理数科専願者数＋普通科・理数科併願者数）／理数科募集人員数

2. 【重点目標達成のための具体的方策】についての自己評価(4段階)

(自己評価の目安) A:達成 B:ほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

(1) 学習指導 :質の高い授業実践と自学自習の態度の育成

- ア 年間を通して旧帝大レベルの大学入試問題研究に取り組み、授業・講習に活かす。(B)
- イ 国公立二次等の記述対策のため、適切な問いがあり思考・判断・表現力が鍛えられる授業を行う。(B)
- ウ 学習意欲向上と科学的思考力の育成を図るため、SSHの取組(課題研究、国際性の育成、本物体験、教科教育)を全教職員で進める。(B)
- エ 全教員が、(他教科を含む)年間3回以上の相互授業参観を行い、授業改善に取り組む。(B)
- オ 英検受験を推奨し、CEFR(B2)英検準一級以上の生徒の割合25%以上を達成する。(B)

(2) 生活指導 :自主自律の精神・多様性を認める意識・態度を涵養する生徒指導

- ア 多様性を認め、相手の立場に立った言動のできる生徒を育成し、いじめ0を達成する。(A)
- イ 生徒の自主性を重んじ、支える立場での生徒指導を徹底する。(B)
- ウ 遅刻防止、挨拶の徹底など、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を全員で行う。(C)
- エ 通級指導、メンタルケア等の配慮が必要な生徒に関する情報を共有し、適切な指導体制を構築する。(B)

(3) 進路指導 :高い目標を目指す集団作り

- ア 進路指導計画に基づき、個人面談又は三者面談を年間3回以上(うち1回は希望する保護者との三者面談)実施する。(B)
- イ 自習室の活用日数を増やし、一日あたりの平均使用人数を現状の1.2倍に増加させる。(A)
- ウ 1年生は週18時間以上、2年生は週24時間以上、授業外での自主学習時間を確保するよう学習時間調査等を活用して指導する。(C)

(4) 特別活動 :学習の上に成り立つ部活動・学校行事等の実践

- ア 部活動顧問・指導員及び行事担当教員は今年度の活動目標を定め、目標達成に向けて取り組む。(B)
- イ 学習の上に成り立つ部活動・学校行事であることを理解させ、集中と切り替えを意識させて、学習・部活動・学校行事等の両立を図る指導を徹底する。(B)

(5) 広報・募集対策 :効果的な広報活動の展開

- ア 広報活動に全教職員が関わり、応募倍率の向上に努める。(B)
- イ 学校ホームページへの記事掲載の内容と時期を計画し、更新回数180回以上を達成する。(A)
- ウ 学校説明会等では校内美化を強化し、生徒会や部活動生徒を活用する。(B)
- エ 創造理数科のPRを強化する。(A)

(6) 学校運営・組織体制 :教職員一丸となった組織的・計画的な学校運営

- ア スクールカウンセラー2名体制を効果的に活用し、担任と協力して生徒のケアに努める。(B)
- イ PTA・同窓会(紫芳会)との連携を強め、生徒へのサポート体制を確実に維持する。(A)
- ウ 保有個人情報の取扱い・入学者選抜業務については、細心の注意を払い、事故ゼロとする。(B)
- エ 教職員の働き方改革、well-beingを強く意識させ、残業時間の減少を図る。(C)

II 次年度以降の課題とそれに対する改善策

	課題	改善策
(1) 学習 指導	進学指導重点校として、難関大入試に対応できる質の高い授業を実践する。	自校作成問題・推薦入試問題の質の向上、難関国公立大学等の入試問題研究、難関大に対応した教科指導力の向上、問いを中心とした思考力・判断力・表現力を育む探究的な授業実践、国公立二次及び難関私大入試に対応できる読解力・記述力の育成

	S S H スーパーサイエンス ハイスクール（Ⅱ期目）の 取組を充実させ、探究能力 や国際性の育成を図る。	自作の CAN-DO リストの活用による課題研究の質の向上、大学や研究 機関等との連携の強化、フィールドワーク・体験実習・講演会等の S S H 企画の充実、研究発表の機会創出、科学オリンピック等への 参加奨励、S S H 海外研修（アメリカ）・海外学校間交流（タイ） ・S S コミュニケーション英語の充実
	創造理数科の特色ある教育 実践により、将来の科学技 術系人材の基礎を育む。	理数系科目の授業充実、質の高い課題研究の実施、独自英語プログ ラムの実施、多彩な企画の実施
	I C T 個人端末を活用し、 個別最適化された学び・協 働的な学びを実現する。	I C T 機器・個人端末活用を促す教員研修、個別最適化された学びに よる学習効果の向上、授業実践の充実 I C T を活用した授業の相互参 観、I C T 支援員の効果的な活用
(2) 進路 指導	第一志望を諦めさせない進 路指導を行う。	学年・進路部・教科間の連携強化、面談（二者・三者）の充実、進 路講演会・社会人講話の充実、大学受験情報の迅速かつ確実な提 供、個人の3年間の成績データに基づくケース会議・指導・激励、
	進学指導重点校としての目 標を安定的に達成する。	高い進路目標の設定、高い志をもつ生徒集団の構築、自習室等の学 習環境の整備、総合型選抜入試への対応、模試結果の確実なフィード バックと指導への反映、大学入学共通テストのフル型受験の奨励
(3) 生活 指導	基本的な生活習慣を確立する。	遅刻減少、クラス・学年・全校集会等で効果的な指導の実践、個別 指導の徹底、時間管理の指導、S N S ルール厳守の徹底
	ダイバーシティ意識を醸成 し、合理的な配慮に基づく 教育活動を実現する。	特別支援教育の理解、多様性を認める教育の推進、通級指導、いじ め防止対策、カウンセリング機能の強化、教員研修の推進
	感染症対策の徹底、感染しな い・させない意識と行動を身 に付けた生徒を育成する。	日常的な感染予防の徹底、状況に応じた注意喚起の実施
(4) 特別 活動	特別活動の一層の充実を図 り、学校生活全体を通じ て、自主自律的な行動ので きる生徒を育成する。	生徒が主体となる部活動・委員会活動・学校行事の推進、教員によ る適切なサポート体制の構築、部活動指導員の有効活用
(5) 広報 募集 対策	本校の魅力を様々な方法で 発信し、入学希望者数の安 定化と拡大を図る。	学校ホームページ随時及び計画的更新、ホームページレイアウトの一 層の工夫、塾対象説明会・学校説明会での実施回数増、P R 力強 化、学校見学者に対する受入態勢の整備、学校見学の充実、公開日 数の増加（授業公開、課題研究発表会、学校行事）を目指す工夫
(6) 学校 運営 組織 体制	企画調整会議、職員会議、 各種会議の役割を明確化し て計画的・効率的に運営 し、決定事項を確実に学校 経営に反映させる。	校内サーバーを用いた情報共有、確実な業務引継ぎ、経営企画室の 経営参画
	教育目標を達成するための 教育環境を整備する。	改築工事の計画的な実行、校内美化の推進、計画的な予算執行、同 窓会・保護者との連携強化、既存設備の点検と安全管理
	教職員のライフ・ワーク・ バランスを推進する。	ライフ・ワーク・バランスの推進を経営計画に位置付け、心身の健 康を維持する。管理職による勤務時間管理及び相談、専門家による 相談体制の充実